

口腔機能低下症の改善によるフレイル予防と健康寿命延伸への取り組み ～高齢化率40%の鹿児島県垂水市における介入型大規模コホート研究～

中村 麻弥 氏

鹿児島大学病院 口腔顎顔面センター 口腔外科 医員



1.背景

我が国では高齢化率の上昇に伴う社会保障や介護負担、医療費の増大が懸念されており、これらの削減には健康寿命の延伸が必要と考えられる。鹿児島大学ではこの問題点の解決策を検索するため、高齢化率40%を示す鹿児島県垂水市の一般住民を対象に多職種連携による長期観察研究を行うこととした。

本コホート研究は鹿児島大学の心臓血管・高血圧内科学分野を中心とし、多職種(医・歯・薬・栄養・理学療法・作業療法・心理)、民間企業、行政および市内唯一の総合病院が全面協力して「垂水研究」を企画し2017年より施行している。

我々は歯科を担当しているが、近年では健康寿命と「口腔機能」との関連が注目されており、2018年度からは65歳以上の口腔機能の低下を認める患者に対し口腔機能管理加算が保険収載されたことも踏まえ、本コホート研究でも「口腔機能低下症」の評価を開始した。「口腔機能低下症」とは加齢のみならず疾患や障害など様々な要因によって口腔の機能が複合的に低下した状態であり、フレイルやサルコペニアなどの全身状態との関連が示唆されている。また、口腔機能低下症を放置しておくこと不可逆的な咀嚼障害や摂食・嚥下障害を引き起こし、誤嚥性肺炎を増加させる。以上のことから、口腔機能低下を予防することで健康寿命を延伸させることが可能と考えられる。

2.目的

口腔機能の改善によりフレイルやサルコペニアを予防し、健康寿命の延伸を示した大規模コホート研究の報告は十分ではない。また、増加傾向にある介護・医療費をどのように減少させるかといった調査もまだまだ不十分である。

そこで本研究では、口腔機能と全身状態との関連性を明らかにし、健診参加者に対し結果に応じた指導を行い、これらの指導が口腔機能低下の改善を通じて健康寿命延伸にいかにか寄与するか明らかにすることを目的とした。

3.対象と方法

対象者は40歳以上の鹿児島県垂水市在住一般住民であり、年1回の健診を毎年受診していただき、その結果をもとに報告会・健康教室会を開催し、研究者自らが受診者にデータの説明と指導を行うこととする。

健診では各分野の専門家が心機能、口腔機能、フレイル、サルコペニア、認知機能、栄養および心理などを評価する。歯科は一般歯科健診と口腔機能低下症の診断7項目(口腔不潔・口腔乾燥・咬合力低下・舌口唇運動機能低下・低舌圧・咀嚼機能低下・嚥下機能低下)を評価し、得られた結果を用いて統計学的な解析を行う。

4.期待される効果

口腔機能低下症の改善がフレイルやサルコペニアを予防し健康寿命を延伸することが明らかになれば、社会保障や介護負担、医療費を削減でき、歯科による健康寿命延伸が可能になると考えられる。

また、口腔機能が高齢者の生命・機能予後にどのように関係するのかを明らかにすることは、将来同じような人口構成となり、介護・医療費の増大に直面する未来の日本の各都市に対策法を届けることができると思われる。